

野球記録あら？カルト Vol.8

<No.71 規定以上選手のシーズン最少打点(2005/7/18)>

間もなくオールスターになるにもかかわらず、両リーグ規定打席以上の選手の中でただ一人打点が一桁の7打点である木村拓也(広島)。この数字は低い得点圏打率(=.188)と一塁ランナーを生還させることができない安打の内容によってもたらされているといえよう。

平成以降、1990年高橋雅裕(大洋)が得点圏打率.129を記録し、規定打席に到達しながらシーズン15打点に終わった。木村の得点圏打率は高橋ほど低くないにしても、打点のペースにおいてはシーズン15打点を下回る。

現在チーム84試合中78試合に出場。この後フル出場し、打点が現在のペースでいくとシーズン12~13打点である。過去規定以上選手のシーズン最低打点は1950年以降、1965年吉田義男(阪神)と1982年松本匡史(読売)が記録した12打点。長打の少なさがこんなところにも影響を及ぼしていた。

[記録は2005年7月17日現在]

規定以上選手におけるシーズン最少打点

順位	打点	年度	名前	所属
①T	12	1965	吉田 義男	(阪神)
①T	12	1982	松本 匡史	(読売)
③	13	1956	沖山 光利	(大洋)
④T	14	1952	今久留主 功	(近鉄)
④T	14	1953	日下 隆	(近鉄)
④T	14	1994	久慈 照嘉	(阪神)
⑦T	15	1953	中村 栄	(国鉄)
⑦T	15	1956	金山 次郎	(広島)
⑦T	15	1965	Chico Barbon	(近鉄)
⑦T	15	1971	東条 文博	(ヤクルト)
⑦T	15	1978	藤原 満	(南海)
⑦T	15	1990	高橋 雅裕	(大洋)

*1950年以降

<No.72 犠牲フライをアウトにしたら…(2005/7/18)>

ふと野球の記録を見ていたら、犠牲フライに目がついた。「これってただのフライアウトだよな～」と感じた。何を犠牲にしたのかわからない。犠打は自分がヒッティングしたいのを抑え、バントをして走者を進めるといった“自己犠牲”を払っているわけだから打数に入れてしまうのは酷である。

それに引き換え犠牲フライはどうだろうか。一般的に犠牲フライは“ノーアウトかワンアウトで走者が三塁にいた時、外野フライにより走者が生還する”といった流れである。何を犠牲にしているのだろうか？ 場面に恵まれなかったらただのフライアウトである。もちろんそういった場面で外野フライを打ったという事は評価できる。とはいえ打点という果実を得、更に打数に加算されないというのはおいすぎではないだろうか。

さて、もし犠牲フライがアウトとして加算されたら打率が変わってくる。犠牲フライが定着した1954年以降で犠牲フライがアウトに加算された場合の打率を調べてみたところ、首位打者が逆転した例は6例あった(同率首位打者は除く→片方が落ちるだけだったため)。その中にはドラマティックなものもある。例えば1956年中西太(西鉄)が同僚の豊田泰光を抑え、戦後初の三冠王を戴冠していたり、1976年張本勲(読売)が8度目の首位打者に輝く、といったものである。

犠牲フライが記録される場面において、もし犠牲フライの規定がなくなったら、打者が今より必死に球にくらいつく姿勢を見る事ができるかもしれない。

[記録は2004年末現在]

犠牲がアウトだったら首位打者逆転

年度	名前	所属	打率	順位	これが…	修正打率	順位	打数	安打	犠飛
1956	豊田 泰光	(西鉄)	.3251	①	→	.3209	②	529	172	7
	中西 太	(西鉄)	.3247	②		.3212	①	462	150	5
1963	長島 茂雄	(読売)	.341	①	→	.334	②	478	163	10
	古葉 毅	(広島)	.339	②		.335	①	463	157	6
1975	山本 浩二	(広島)	.319	①	→	.3158	②	451	144	5
	井上 弘昭	(中日)	.318	②		.3163	①	468	149	3
1976	谷沢 健一	(中日)	.35484	①	→	.351	②	496	176	6
	張本 勲	(読売)	.35478	②		.353	①	513	182	3
1981	藤田 平	(阪神)	.358	①	→	.3558	②	369	132	2
	篠塚 利夫	(読売)	.357	②		.3559	①	412	147	1
1998	鈴木 尚典	(横浜)	.337	①	→	.33397	②	514	173	4
	前田 智徳	(広島)	.335	②		.33399	①	504	169	2

*1954年以降

<No.73 阪神優勝の条件(2005/7/24)>

前半戦 2 位中日に 5 ゲーム差をつけた阪神。過去、前半戦終了時(パ・リーグの二期制時は除く、以下同じ)2 位に 5 ゲーム差以上をつけたのは 39 チームある。そのうち優勝を逃したのは 7 チームしかなく、阪神の優勝確率は 82.1%(32/39)と導き出せる。

しかし、10 ゲーム差をつけた球団と同列に扱うのもどうかと思い、『5 ゲーム差～8 ゲーム差』をつけた場合において見てみたところ、過去 23 チームまでがこの間に含まれていた。この 23 チーム中優勝を逃したのは 7 チーム。すなわち 5 ゲーム差以上差をつけながら逆転されたチームのすべてがこの『5 ゲーム差～8 ゲーム差』をつけた場合に含まれているのである。まだまだセ・リーグの優勝の行方はわからないと言える。阪神の優勝確率が 69.6%(16/23)まで下がったのだ。

では、阪神が優勝する為に必要な条件となるものは何か？それは“後半戦開幕 10 試合で勝ち越し”をすることである。過去、逆転された 7 チームすべてが後半戦開幕 10 試合で勝ち越していない。唯一 1998 年日本ハムが 5 勝 5 敗のタイにしている程度だ。反対にこの間勝ち越した球団は 12 チームあり、すべての球団が優勝に結び付けている。

26 日から始まる後半戦。阪神の後半開幕 10 試合に注目である。

[記録は 2005 年 7 月 24 日現在]

前半戦終了時 5 ゲーム差以上をつけながらも優勝を逃した球団

年度	球団	差	最終 順位	オールスター後 10 試合				オールスター翌月		
				勝利	敗戦	引分	差	勝利	敗戦	引分
1958 年	南海	6.5	②	3	6	1	-3	9	13	2
1963 年	南海	8.0	②	4	6	0	-2	10	11	1
1964 年	大洋	6.5	②	2	8	0	-6	12	14	2
1989 年	オリックス	5.0	②	4	6	0	-2	8	14	1
1996 年	日本ハム	5.0	②	4	6	0	-2	10	11	1
1996 年	広島	5.0	②	4	6	0	-2	13	13	0
1998 年	日本ハム	8.0	②	5	5	0	0	6	14	1

*パ・リーグの二期制時を除く

<No.74 2人あわせて200打点以上(2005/7/28)>

現在セントラル・リーグの打点部門は今岡誠(阪神)が87打点とトップ。同じ所属の金本知憲が78打点を記録し、2位につけている。最近での打点部門同一球団選手におけるワンツーフイニッシュは2003年ダイエーの松中信彦(=123打点)と城島健司(=119打点)が記録しているが、セ・リーグでは1981年広島の本山浩二(=103打点)とJ.ライトル(=100打点)が記録して以来23年間出ていない。

両選手が共に残り試合をフル出場し、現在の打点ペースでいくと、今岡は135打点、金本は121打点となり、2人あわせると256打点にもなる。『2人あわせて250打点以上』は、セ・リーグでは1950年以来55年ぶりとなる。タイトルと違う内容になってしまった…(汗)。

阪神選手における『2人あわせて200打点コンビ』は1985年以来20年ぶりということを書こうとしたのだが、あまりにも2人の打点ペースが高く、かつ今期のペナントが146試合と例年に比べ多いため、想定以上の数字となってしまった。

今期、他に『2人あわせて200打点コンビ』が達成しそうなものは、松中信彦を基軸としたソフトバンク勢だろうか。その中で『松中&城島コンビ』に大いに期待したい。城島の打点が急激に伸びないと現在の状況では厳しいが、このコンビが今期達成すると歴代2位となる4度目の『2人あわせて200打点コンビ』となる。過去最多は言わずと知れた『王貞治&長島茂雄コンビ』の6回である事を付記しておく。

[記録は2005年7月28日現在]

同一年度同一球団選手におけるあわせて200打点コンビ

合計	年度	所属	名前	試合	打点	名前	試合	打点
288	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	岩本 義行	130	127
270	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	大岡 虎雄	135	109
268	1949	(大阪)	藤村 富美男	137	142	別当 薫	137	126
263	2001	(近鉄)	中村 紀洋	140	132	Tuffy Rhodes	140	131
253	1950	(読売)	青田 昇	137	134	川上 哲治	138	119
245	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	鈴木 尚典	134	92
245	2001	(ダイエー)	小久保 裕紀	138	123	松中 信彦	130	122
244	1968	(読売)	長島 茂雄	131	125	王 貞治	131	119
242	1985	(阪神)	Randy Bass	126	134	掛布 雅之	130	108
242	2003	(ダイエー)	松中 信彦	135	123	城島 健司	140	119
240	1985	(ロッテ)	落合 博満	130	146	Leron Lee	115	94
236	1950	(松竹)	岩本 義行	130	127	大岡 虎雄	135	109
235	1985	(阪神)	Randy Bass	126	134	岡田 彰布	127	101
233	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	三村 勲	126	72
232	1950	(大洋)	藤井 勇	140	122	門前 眞佐人	128	110
232	2002	(近鉄)	Tuffy Rhodes	138	117	中村 紀洋	140	115
232	2003	(ダイエー)	松中 信彦	135	123	井口 資仁	135	109
231	1949	(読売)	川上 哲治	134	129	青田 昇	134	102
231	1950	(中日)	西沢 道夫	137	135	杉浦 清	128	96
229	1970	(東映)	大杉 勝男	130	129	張本 勲	125	100
228	1949	(大阪)	藤村 富美男	137	142	土井垣 武	126	86

228	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	金山 次郎	137	67
228	2003	(ダイエー)	城島 健司	140	119	井口 資仁	135	109
227	2001	(近鉄)	中村 紀洋	140	132	磯部 公一	140	95
227	2003	(ダイエー)	松中 信彦	135	123	Pedro Valdes	124	104
226	2001	(近鉄)	Tuffy Rhodes	140	131	磯部 公一	140	95
225	1950	(大阪)	藤村 富美男	140	146	後藤 次男	112	79
225	2001	(読売)	清原 和博	134	121	松井 秀喜	140	104
224	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	駒田 徳広	129	71
223	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	波留 敏夫	130	70
223	2003	(ダイエー)	城島 健司	140	119	Pedro Valdes	124	104
221	1966	(読売)	王 貞治	129	116	長島 茂雄	128	105
220	2001	(ダイエー)	小久保 裕紀	138	123	井口 資仁	140	97
220	2004	(ダイエー)	松中 信彦	130	120	Julio Zuleta	130	100
219	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	宮崎 仁郎	135	58
219	1963	(南海)	野村 克也	150	135	Kent Hadley	137	84
219	2001	(ダイエー)	松中 信彦	130	122	井口 資仁	140	97
219	2003	(ヤクルト)	Alex Ramirez	140	124	鈴木 健	135	95
218	1950	(大阪)	藤村 富美男	140	146	白坂 長栄	139	72
218	1963	(読売)	長島 茂雄	134	112	王 貞治	140	106
218	1969	(読売)	長島 茂雄	126	115	王 貞治	130	103
218	1984	(阪急)	Boomer Wells	128	130	藁田 浩二	119	88
218	1985	(阪神)	Randy Bass	126	134	真弓 明信	119	84
218	2001	(ダイエー)	小久保 裕紀	138	123	城島 健司	140	95
217	1989	(オリックス)	Boomer Wells	130	124	門田 博光	116	93
217	1994	(近鉄)	石井 浩郎	130	111	Ralph Bryant	105	106
217	2001	(近鉄)	中村 紀洋	140	132	吉岡 雄二	127	85
217	2001	(ヤクルト)	Roberto Petagine	138	127	稲葉 篤紀	138	90
217	2001	(ダイエー)	松中 信彦	130	122	城島 健司	140	95
216	1976	(読売)	王 貞治	122	123	張本 勲	130	93
216	2001	(近鉄)	Tuffy Rhodes	140	131	吉岡 雄二	127	85
215	1950	(大阪)	藤村 富美男	140	146	徳網 茂	135	69
215	1950	(大洋)	藤井 勇	140	122	大沢 清	139	93
215	2001	(ヤクルト)	Roberto Petagine	138	127	Alex Ramirez	138	88
214	1950	(中日)	西沢 道夫	137	135	原田 徳光	137	79
214	1989	(オリックス)	Boomer Wells	130	124	藤井 康雄	121	90
213	1980	(近鉄)	Charles Manuel	118	129	栗橋 茂	124	84
213	1985	(ロッテ)	落合 博満	130	146	山本 功児	122	67
213	2003	(ダイエー)	井口 資仁	135	109	Pedro Valdes	124	104
213	2004	(ヤクルト)	Alex Ramirez	129	110	岩村 明憲	138	103
212	1949	(大阪)	別当 薫	137	126	土井垣 武	126	86
212	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	荒川 昇治	132	51
212	1972	(読売)	王 貞治	130	120	長島 茂雄	125	92
211	1968	(読売)	長島 茂雄	131	125	柴田 勲	130	86
211	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	石井 琢朗	131	58
211	2000	(ダイエー)	松中 信彦	130	106	小久保 裕紀	125	105
211	2001	(西武)	Alex Cabrera	139	124	Scott McLain	135	87
211	2004	(ダイエー)	松中 信彦	130	120	城島 健司	116	91
210	1950	(松竹)	小鶴 誠	130	161	吉田 和生	91	49
210	1986	(ロッテ)	落合 博満	123	116	Leron Lee	129	94
210	1987	(阪急)	Boomer Wells	129	119	石嶺 和彦	127	91
209	1964	(読売)	王 貞治	140	119	長島 茂雄	133	90

209	1980	(近鉄)	Charles Manuel	118	129	羽田 耕一	115	80
209	1985	(阪急)	Boomer Wells	129	122	松永 浩美	130	87
209	1985	(阪神)	掛布 雅之	130	108	岡田 彰布	127	101
209	2004	(ダイエー)	松中 信彦	130	120	井口 資仁	124	89
208	1950	(中日)	西沢 道夫	137	135	野口 明	137	73
208	2001	(ヤクルト)	Roberto Petagine	138	127	岩村 明憲	136	81
208	2001	(読売)	清原 和博	134	121	江藤 智	134	87
207	1998	(日本ハム)	Nigel Wilson	133	124	片岡 篤史	133	83
206	1950	(大阪)	藤村 富美男	140	146	安居 玉一	118	60
206	1971	(阪急)	長池 徳二	130	114	加藤 秀司	122	92
206	1977	(読売)	王 貞治	130	124	張本 勲	122	82
206	1979	(阪急)	加藤 英司	122	104	島谷 金二	127	102
206	1980	(ロッテ)	Leon Lee	128	116	Leron Lee	127	90
206	1983	(阪急)	水谷 実雄	130	114	蓑田 浩二	127	92
206	1985	(読売)	Warren Cromartie	119	112	原 辰徳	124	94
206	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	佐伯 貴弘	112	53
206	2001	(読売)	清原 和博	134	121	高橋 由伸	140	85
205	1949	(大阪)	藤村 富美男	137	142	金田 正泰	133	63
204	1948	(読売)	川上 哲治	135	105	青田 昇	140	99
204	1963	(南海)	野村 克也	150	135	Buddy Peterson	130	69
204	1977	(広島)	山本 浩二	130	113	Adrian Garrett	128	91
204	1986	(西武)	秋山 幸二	130	115	石毛 宏典	129	89
204	1998	(近鉄)	Phil Clark	135	114	中村 紀洋	132	90
204	1999	(横浜)	Robert Rose	134	153	谷繁 元信	122	51
204	2001	(近鉄)	中村 紀洋	140	132	川口 憲史	124	72
204	2001	(ダイエー)	小久保 裕紀	138	123	Pedro Valdes	137	81
203	1949	(大映)	大岡 虎雄	121	111	小鶴 誠	129	92
203	1950	(大洋)	門前 眞佐人	128	110	大沢 清	139	93
203	1971	(南海)	門田 博光	129	120	野村 克也	127	83
203	1981	(広島)	山本 浩二	130	103	Jim Lyttle	128	100
203	2000	(日本ハム)	小笠原 道大	135	102	Sherman Obando	107	101
203	2001	(近鉄)	Tuffy Rhodes	140	131	川口 憲史	124	72
203	2001	(ダイエー)	松中 信彦	130	122	Pedro Valdes	137	81
203	2004	(横浜)	Tyrone Woods	130	103	多村 仁	123	100
202	1970	(南海)	野村 克也	130	114	Clarence Jones	128	88
202	1985	(阪急)	Boomer Wells	129	122	蓑田 浩二	105	80
202	1990	(オリックス)	石嶺 和彦	130	106	藤井 康雄	128	96
202	1997	(西武)	Domingo Martinez	130	108	鈴木 健	133	94
202	2002	(西武)	Alex Cabrera	128	115	松井 稼頭央	140	87
201	1950	(毎日)	別当 薫	120	105	戸倉 勝城	110	96
201	1977	(ヤクルト)	大杉 勝男	123	104	Charles Manuel	114	97
201	1979	(阪急)	加藤 英司	122	104	Bobby Marcano	127	97
201	1989	(オリックス)	Boomer Wells	130	124	石嶺 和彦	130	77
200	1963	(南海)	野村 克也	150	135	小池 兼司	149	65
200	1973	(阪急)	長池 徳二	128	109	加藤 秀司	118	91
200	1978	(ヤクルト)	Charles Manuel	127	103	大杉 勝男	125	97
200	1984	(阪急)	Boomer Wells	128	130	松永 浩美	125	70
200	1989	(近鉄)	Ralph Bryant	129	121	German Rivera	123	79
200	1990	(西武)	Orestes Destrade	130	106	清原 和博	129	94
200	2001	(西武)	Alex Cabrera	139	124	松井 稼頭央	140	76

<No.75 久方振りの日本人右打席打者の3割到達(2005/7/30)>

現在両リーグの3割打者を見てみると、「この球団の日本人右打席の選手で3割は久方ぶりなのは？」と思う選手がいた。今江敏晃(ロッテ)である。今期開幕早々殊勲打を立て続けに挙げ、“ミスター・ロッテ候補生の看板に偽りなし”の活躍。5月は成績を落としたものの、現在打率は.304である。

今期、年間規定打席以上で3割到達となれば、球団としては1996年堀幸一以来9年ぶりの日本人右打者3割である。そして、球団最年少タイ満年齢での3割打者誕生となる。今年で満22歳の今江。球団での満22歳のシーズン3割打者(規定以上)は、1958年葛城隆雄と1964年山内和弘の2人が記録し、今江が31年ぶり3人目となるか注目である。

[記録は2005年7月29日現在]

球団別最近の3割打者 (右打席日本人打者対象)

年度	名前	所属	打率
1985	古屋 英夫	(日本ハム)	.300
1996	堀 幸一	(ロッテ)	.312
2003	緒方 孝市	(広島)	.300
2004	谷 佳知	(オリックス)	.317
2004	和田 一浩	(西武)	.320
2004	城島 健司	(ダイエー)	.338
2004	井口 資仁	(ダイエー)	.333
2004	井端 弘和	(中日)	.302
2004	今岡 誠	(阪神)	.306
2004	古田 敦也	(ヤクルト)	.306
2004	宮本 慎也	(ヤクルト)	.301
2004	多村 仁	(横浜)	.305
2004	種田 仁	(横浜)	.300
2004	小久保 裕紀	(読売)	.314

*楽天を除く

＜No.76 シーズン 20 本塁打以上を記録しながらも、その通算は…(2005/7/31)＞

シーズン 20 本塁打以上を記録しながら通算本塁打は少ない。これは外国人選手に多く見られる。「1 年目は活躍しても翌年はさっぱり」、がその典型であろう。複数年実働がある選手を対象に『シーズン 20 本塁打以上記録した選手の最少通算本塁打』を調べてみた。

『シーズン本塁打 20 本以上記録した選手の最少通算本塁打』記録保持者はG.トマソン(読売)である。1981 年 20 本塁打を放つも翌年は 0 本塁打に終わり、日本球界を去った。最近では 2003 年 DT クローマー(日本ハム)が 20 本塁打の翌年 7 本塁打に終わり、通算本塁打は 27 本という例がある。

シーズン 30 本塁打以上記録した選手の最少通算本塁打』記録保持者はM.フランクリン。1999 年 30 本塁打を記録したフランクリン(当時日本ハム)であるが、翌年N.ウィルソン、S.オバンドーに押し出される形となり、シーズン途中(6 月 27 日)金銭トレードで阪神に移籍。7 月 5 日のセ・リーグでのデビュー戦で本塁打を放ち、期待を持たせたが、右手首痛により 7 月 14 日登録抹消。その後一軍の出場なく、前年の 30 本に 2 本上乘せした通算 32 本塁打に終わった。

『シーズン 20 本塁打以上～』での日本人選手はどうだろうか？引退選手では森谷良平が記録した通算 49 本塁打が最少である。この記録を更新しそうなのが日本ハムの西浦克拓だ。1998 年 20 本塁打を記録するも、その後のシーズン最多本塁打は 2003 年の 6 本。通算本塁打は 35 本。今期は一軍出場さえない。今年 11 月で 31 歳。まだまだ老け込んで欲しくない選手だ。

[記録は 2005 年 7 月 30 日現在]

シーズン 20 本塁打以上記録した選手の最少通算本塁打

名前	所属	自己最多 本塁打	通算本塁打
Gary Thomasson	(読売)	20	20
Mark Brouhard	(ヤクルト)	21	23
Scott Coolbaugh	(阪神)	22	24
Wade Rowdon	(広島)	22	24
Mark Ryal	(中日)	24	24
Gerge Wilson	(西鉄)	20	27
Dt Cromer	(日本ハム)	20	27
Wayne Garrett	(中日)	20	28
Glenn Davis	(阪神)	23	28
Willie Smith	(南海)	24	29
Lloyd Moseby	(読売)	25	29

*複数年実働ある選手が対象

<No.77 実働 5 年目までの安打数(2005/7/31)>

今期終了時、実働 5 年目までの通算安打の上位にA.ラミレス(ヤクルト)と赤星憲広(阪神)の 2 人が入り込みそうだ。ラミレスの実働 4 年目までの通算安打数は 651 安打。現在 97 安打(88 試合)を放ち、現時点においても歴代 6 位にランクインされている。現在の安打ペースでいくと今期終了時には通算 811 安打を記録することになり、史上 2 人目の実働 5 年目までに 800 安打を達成しそうだ。

赤星は現在 120 安打(95 試合)を記録しており、現在のペースを維持すると 180 安打となる。昨年までの 549 安打に 180 安打を加算すると 728 安打となり、これは歴代 9 位に相当する。日本人選手が上位 10 以内にランクインされるのは 1966 年土井正博(近鉄)が 689 安打で 7 位にランクインされて以来の事であり、赤星が 39 年ぶりの記録達成なるか注目である。

[記録は 7 月 30 日現在]

実働 5 年目までにおける安打数上位 10 選手

順位	安打	試合	年度	名前	所属
①	824	634	1987	Boomer Wells	(阪急)
②	778	624	1992	Jim Paciorek	(阪神)
③T	763	644	1962	長島 茂雄	(読売)
③T	763	646	1997	Robert Rose	(横浜)
⑤	761	628	1981	Leron Lee	(ロッテ)
⑥	748	634	2005	Alex Ramirez	(ヤクルト)
⑦	740	613	1952	後藤 次男	(大阪)
⑧	730	629	2001	Luis Lopez	(広島)
⑨	728	633	1972	Art Lopez	(ヤクルト)
⑩	726	605	1984	Tommy Cruz	(日本ハム)
⑩T	669	579	2005	赤星 憲広	(阪神)
⑩T	613	549	2004	Alex Cabrera	(西武)

<No.78 オールスター-MVP 選手の首位打者(2005/8/3)>

現在セントラル・リーグ打撃 5 位.318 を記録している金城龍彦(横浜)。今年のオールスター第 1 戦では自身初の MVP を獲得。その勢いをそのままキープし、後半戦 7 試合の打率は.400(30 打数 12 安打)と打率 1 位の青木宣親(ヤクルト)とは 1 分 5 厘差。残り試合数から考えると、逆転の可能性は充分にあると見て良いであろう。

過去、オールスターで MVP を獲得した年に首位打者を獲得したのは 13 人。12 年ぶり 14 人目の快挙なるか？

[記録は 2005 年 8 月 3 日現在]

オールスター-MVP 獲得の同年に首位打者

年度	打率	名前	所属
1951	.377	川上 哲治	(読売)
1952	.336	飯島 滋弥	(大毎)
1958	.314	中西 太	(西鉄)
1962	.374	Jack Bloomfield	(近鉄)
1965	.336	江藤 慎一	(中日)
1974	.340	張本 勲	(日本ハム)
1975	.319	山本 浩二	(広島)
1977	.358	若松 勉	(ヤクルト)
1983	.332	落合 博満	(ロッテ)
1984	.355	Boomer Wells	(阪急)
1988	.340	正田 耕三	(広島)
1991	.340	古田 敦也	(ヤクルト)
1993	.329	Tom O'malley	(阪神)

<No.79 借金いくつまで？(2005/8/7)>

7月に球団史上初の月間勝ち越しを決めた楽天。8月はまるで開幕当初を彷彿させる弱投ぶりだ。ここ5試合で平均11失点を喫し、打線が先制してもこれでは「焼け石に水」である。

さて、現在楽天の戦績は31勝69敗1分け。借金は38。残り35試合を現在の勝率ペースでいくと借金は50を超える。新人監督の田尾安志監督としては開幕前より予想されていたが、予想以上に厳しい1年となったのは間違いないところだろう。

シーズン終了時、借金40以上となれば、新人監督としては1990年田淵幸一監督(ダイエー)以来15年ぶり。そして借金50以上となれば1955年藤井勇監督(大洋)以来50年ぶり3人目となる。さすがにそこまでは…と思うが、ベテラン勢の多い新球団には厳しい夏の暑さはこれ以上ない大敵であろう。

[記録は2005年8月6日現在]

新人監督のシーズン借金30以上

年度	借金	試合	勝利	敗戦	引分	名前	所属	備考
1955	68	130	31	99	0	藤井 勇	(大洋)	
1950	52	138	42	94	2	西垣 徳雄	(国鉄)	
1956	44	130	43	87	0	迫畑 正巳	(大洋)	
1990	44	130	41	85	4	田淵 幸一	(ダイエー)	
2005	38	101	31	69	1	田尾 安志	(楽天)	
2002	37	140	50	87	3	石毛 宏典	(オリックス)	
1970	35	130	43	78	9	稲尾 和久	(西鉄)	
1978	35	130	42	77	11	広瀬 叔功	(南海)	
2003	35	120	41	76	1	レオン. L	(オリックス)	監督代行として
1956	34	154	58	92	4	岩本 義行	(東映)	監督代行経験有り
1976	32	130	44	76	10	鬼頭 政一	(太平洋)	監督代行経験有り
1971	30	130	44	74	12	田宮 謙次郎	(東映)	監督代行経験有り

<No.80 自己ベスト5の打率(規定以上)を記録したシーズンの通算打率(2005/8/8)>

現役最多8回の打率3割(規定以上)を記録している前田智徳(広島)。昨年終了時点での通算打率は.303(5227打数1586安打)。4000打数以上の選手の中では16位にランクされている。意外にも打率は1998年に記録した打率.335が最高であり、以下1994年.321、1993年.317と続く。

ここで5年という区切りをつけ、『規定以上シーズンにおける自己ベスト5の打率を記録したシーズンを通算した打率』を調べてみたら面白いのではないかと思った。上位に入るためには、何回かずば抜けた打率を残さないと厳しい。特にセントラル・リーグの現役日本人打者は上位に入るのは至難かも知れないと思った。というのは、1983年真弓明信(阪神)以来、日本人選手の打率.350以上が出ていないからである。

結果を見てみると、案の定前田はあまり高順位ではなく、歴代39位の打率.320(2298打数736安打)であった。セ・リーグの現役選手では鈴木尚典(横浜)の25位が最高。現役最強打者の松中信彦(ソフトバンク)は残念ながら35位。1999年の打率.268が大きく足を引っ張った。現役最高順位はやはりこの男、小笠原道大(日本ハム)。今期は体調芳しくなく、イマイちな成績だが、ベスト5シーズンを見ると、歴代6位にランクインした。

意外だったのは4000打数以上の打率トップであるL・リー(ロッテ)が16位にまで落ちた事だった。高打率を数多く記録してなかったのか。

[記録は2004年末時点]

ベスト5シーズンの通算打率上位30選手

順位	打率	打数	安打	名前	所属
①	.365	2525	922	イチロー	(オリックス)
②	.357	2290	818	張本 勲	(東映)
③	.3464	2226	771	若松 勉	(ヤクルト)
④	.3463	2111	731	落合 博満	(ロッテ)
⑤	.345	2164	746	川上 哲治	(読売)
⑥	.3413	2438	832	小笠原 道大	(日本ハム)
⑦	.3412	2301	785	長島 茂雄	(読売)
⑧	.340	2294	780	与那嶺 要	(読売)
⑨	.33709	2130	718	Randy Bass	(阪神)
⑩	.33708	2133	719	王 貞治	(読売)
⑪	.3368	2530	852	Boomer Wells	(阪急)
⑫	.3367	2373	799	谷沢 健一	(中日)
⑬	.336	2444	822	Robert Rose	(横浜)
⑭	.3348	2001	670	藤村 富美男	(大阪)
⑮	.3347	2528	846	榎本 喜八	(東京)
⑯	.334	2373	792	Leron Lee	(ロッテ)
⑰	.333	2180	726	加藤 英司	(阪急)
⑱	.33074	2183	722	篠塚 利夫	(読売)
⑲	.33070	2026	670	大下 弘	(東急)
⑳	.3303	2310	763	大杉 勝男	(ヤクルト)

㊶	.3298	2177	718	掛布 雅之	(阪神)
㊷	.329	2154	709	新井 宏昌	(近鉄)
㊸	.328	2318	761	Warren Cromartie	(読売)
㊹	.327	2493	814	西沢 道夫	(名古屋)
㊺	.3254	2480	807	鈴木 尚典	(横浜)
㊻	.3249	2299	747	山本 浩二	(広島)
㊼	.3246	2289	743	山内 一弘	(大毎)
㊽	.3234	2239	724	金田 正泰	(阪神)
㊾	.3231	2151	695	江藤 慎一	(ロッテ)
㊿	.322	2521	813	谷 佳知	(オリックス)

*引退選手の所属は最終

*現役選手は2004年在籍球団